

3

兵庫県神戸市

神戸市立玉津第一小学校

■クラス数／27 クラス
 ■児童数／915 名
 ■建築主／神戸市
 ■所在地／神戸市西区玉津町小山 1-1-4-7
 ■敷地面積／20,717.52㎡
 ■建築面積／5,383.91㎡
 ■延床面積／9,343.40㎡ (体育館 1,359.07㎡)
 ■構造・規模／鉄筋コンクリート造 地上3階建
 ■施工期間／2005 年 12 月～2007 年 3 月
 ※クラス・児童の数値は平成 22 年 3 月末現在

豊かな自然体験と多様な エコ設備で、環境学習を促進。

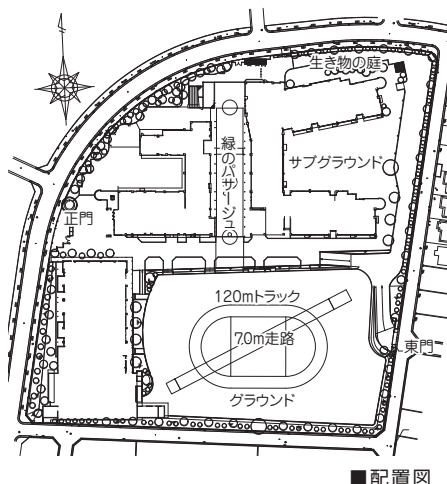
自然との共生が体験できる配置計画。中庭の芝生スペースを中心に、耕し育てふれ合うことで、生命の大切さを考える。自然エネルギーを積極的に活用する工夫。



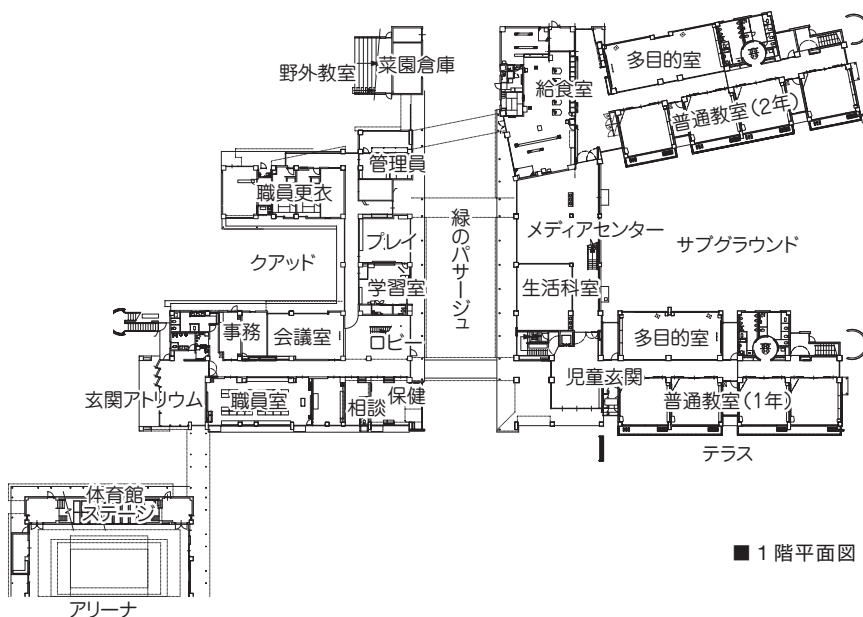
サブグラウンド（芝生の中庭）に連続した普通教室とメディアセンター

計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 環境面からの持続可能性への配慮
2. 屋内運動施設での快適な環境づくり



■配置図



■1階平面図

環境面からの持続可能性への配慮

多様な自然体験ができる空間を、利用のしやすさに配慮して計画



1 多様な体験ができる緑のパサージュ



2 グラウンドに面した低学年テラス



3 ウサギの飼育小屋



4 土に親しむ畑

校長の視点から

テラスや、芝生の中庭が
体験学習の場

校舎の中心に緑のパサージュ（小径）を配置し、1年生の教室は、南側にテラスと運動場が広がる、とても開放的な空間です。緑のパサージュとテラスは、生活科でコマを回したり、竹トンボを飛ばしたりするのにちょうどよいスペースとなっています。また、芝生の中庭では、休み時間ともなると裸足になって駆け回ったり、座っておしゃべりしたり、側転したりと、子どもたちは

思い思いにのびのびと楽しんでいます。さらに、2年生の教室にも南側に芝生の中庭があるので、わざわざ運動場に行くほどもない外での活動には、サッと出られてすぐに使えます。運動会の前など、まだ運動場に出るほど運動になれていないときは、芝生の中庭で練習すると転んだり倒れたりしても痛くなく、子どもたちは怖さを克服しながらさまざまな運動能力を身につけていけます。身近な外遊びを通して、子どもたちは、知らず知らずのうちに自然体験をしています。（写真1、2）

生命の大切さを知ることが、
環境教育の第一歩

敷地内には畑やウサギの飼育小屋もあります。子どもたちはここで、土にふれ、種をまき、水やエサをやり、かわいがり、その成長に身近に接することで、生命の尊さ、生命への愛情を身につけていきます。そして、花が枯れたり、小さな生き物が命絶える場面にも出会ったりしながら、貴重な自然体験を積み重ねています。（写真3、図4）

環境面からの持続可能性への配慮
 ↳ 環境共生への関心を高める、さまざまな仕掛け



5 日射をコントロールする庇と室内に光を反射させるライトシェルフ



7 太陽光パネル



6 面積約430㎡の屋上緑化スペース



8 「風の道」の廊下上部の勾配天井により「風の筒」入口へ熱気を誘導



9 自然換気(重力換気)の排気口となる「風の塔」

教職員の視点から

光と風と緑を活かす仕組みで 教室は一年中快適

太陽の高度が上がる夏には中庇が日射を遮るため、カーテンを引く必要がなく、教室には爽やかな風が流れ込みます。さらに、「風の道」「風の筒」「風の塔」による自然換気で、教室は夏場でも過ごしやすさを実感できます。また、条例基準を満たすというレベルを超えて、屋上面積の約30%に実施した屋上緑化は、校舎を夏の日射から守るだけでなく、中央

階段3階や廊下から見えることで子どもたちに癒しを与えています。一方、冬はライトシェルフが光の反射率を高めて教室の奥まで明るくしてくれます。この他、太陽光パネルと、その働きを目で確かめられるモニターは、子どもたちにとって環境学習の有力な教材となっています。こうした自然の力を活かすさまざまな知恵と身近に接することで、子どもたちは環境共生の基本を学んでいます。

(写真5～10)

地域に広く開かれた 快適に使える運動施設

地域に体育館やグラウンドを開放するのに伴って、その使い勝手にも配慮しています。換気が行き届いた体育館内には、地域の方が使える更衣室や、グラウンドからも使いやすい「だれでもトイレ」を整備し、ベビーシートも設置しています。さらに、エントランスの床段差を解消し、地域の人たちが幅広く使えるようにしています。(写真10～13)

屋内運動施設での快適な環境づくり ― 快適な体育館の整備



10 室内外の温度差により生じる気圧差を利用した重力換気システムを設けた体育館



11 床段差のないエントランス



12 外からも使いやすい「だれでもトイレ」



13 「だれでもトイレ」内のベビーシート

〈設計者の視点から〉

◎子どもたちが元気に走り回る「緑のパサージュ」を南北に貫きました。(写真1)

◎北校舎を南校舎より長くし、南風を北校舎が受け止め、南北の圧力差を利用して北校舎に風を引き入れる工夫をしています。東西方向の風には、南北の校舎の中間の緑のパサージュ内に圧力のゆらぎが起こり、そよ風が得られるようにしています。また、ライトシェルフや庇により採光と遮光を調整し、快適な光環境をつくっています。

(写真1、5、8、9)

(設計/いるか設計集団)

検討委員会委員の視点から

環境面からの持続可能性への配慮の観点から

中庭の芝生や屋上緑化、ライトシェルフや太陽光パネル、自然換気の利用など、環境負荷の低減や自然との共生を考慮した施設計画となっている。

屋内運動施設での快適な環境づくりの観点から

外部空間と内部空間の運動施設を結ぶ動線の良さや、トイレ等細部にまで行き届いたユニバーサルデザインなど、地域開放も視野に入れた計画となっている。また、換気設備を充実させるなど、快適な運動空間が確保されている。